



# 2024年度 九州情報大学 学生実態調査

# 2024年度学生意識調査について

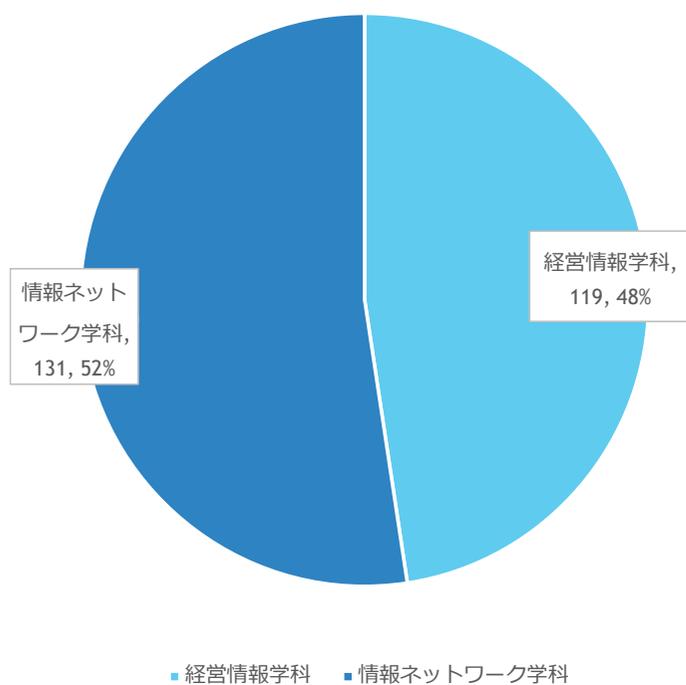
- ▶ 調査対象者：全学年の学部学生
- ▶ 調査日程：2025年1月6日（月）～27日（月）であり、297件の回答があった。
- ▶ 調査内容
  1. 基本属性
  2. 大学生の生活
  3. 大学生の学び
  4. 大学生の意識と行動等
- ▶ 九州情報大学FD委員会では、調査結果を公表することを原則としており、毎年「学生生活実態調査報告書」として学生へのフィードバックを行うと共に、教職員で情報を共有し、授業等教育活動の見直しに活用している。

# 2024年度学生意識調査について

大項目	設問数
1.あなたの属性	3
2.大学生活への期待	2
3.実際に力を入れたこと	6
4.魅力を感じる授業方法	1
5.大学の施設設備について	4
6.不安への対処法	2
7.大学への期待に対する成果	10
8.将来について	2
9.本学の「建学の精神」「3つのポリシー」についての理解	8
10.大学教育の総合評価	3

- ▶ 学生意識調査の設問には、前年度と比較して変更点は無い。
- ▶ 学修指導が教育指導でもあり学生支援でもあると考えられるため、設問には、教育面と学生生活面と両方の内容を問う項目が含まれている。

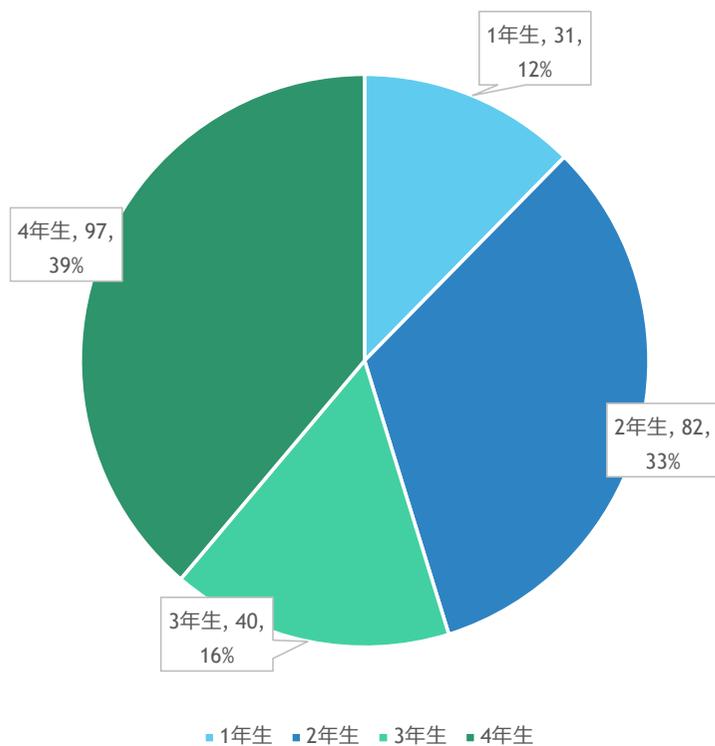
あなたの学科はどちらですか？



## 1-1 あなたの学科はどちらですか？

回答者の学科属性は、経営情報学科が48%、情報ネットワーク学科がやや多めの52%である。

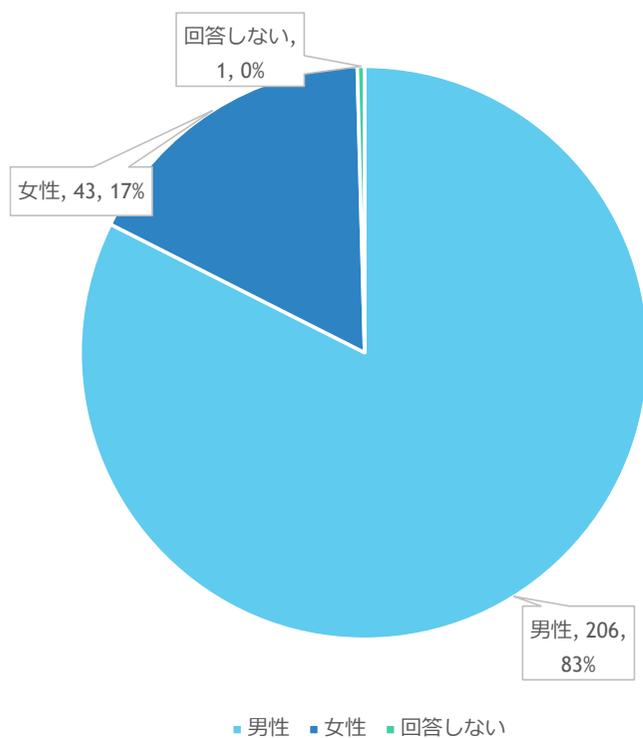
あなたは何年生ですか？



## 1-2 あなたは何年生ですか？

それぞれの学年の比率は、1年生が31名（12%）、2年生が82名（33%）3年生が40名（16%）、4年生が97名（39%）で、学年により多少の偏りがみられる。

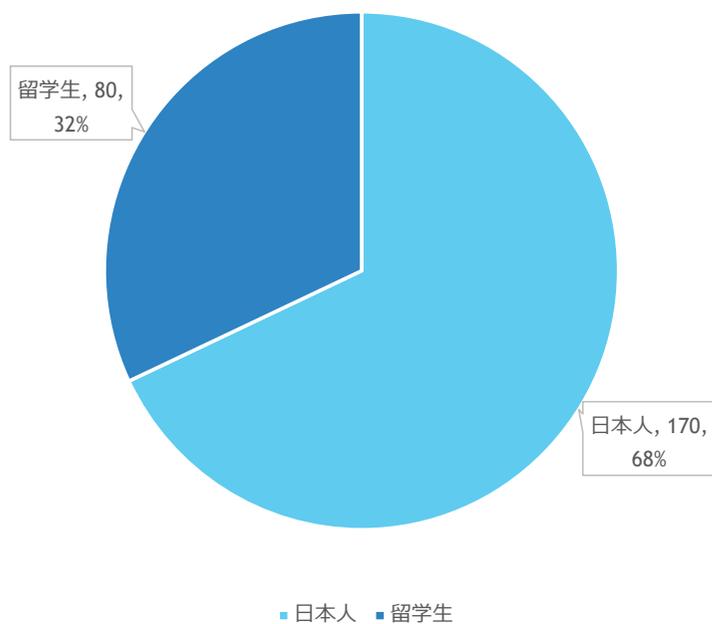
あなたの性別はどちらですか？



## 1-3 あなたの性別はどちらですか？

回答者の男女比は、おおよそ四対一である。学生のプライバシーに配慮して、「回答しない」という項目も設けている。

あなたの国籍について教えてください。



## 1-4 あなたの国籍について教えてください。

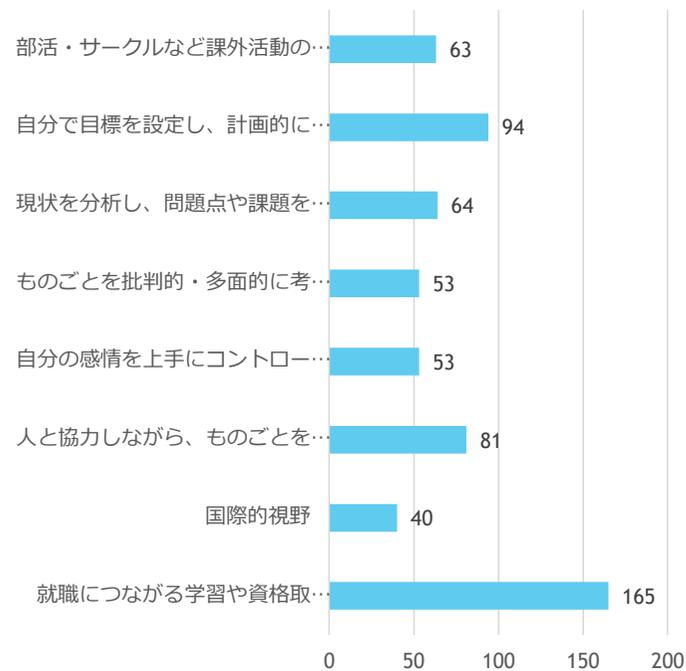
回答者の国籍は日本人が68%、留学生が32%である。昨年度は日本人が75%、留学生が25%であった。

## 2-1 大学生活に何を期待していますか？（複数回答可）

学生に大学生活で期待することを尋ねると、左の表のような結果となった。昨年同様、学生の興味はやはり就職に大きく傾いていることが分かる。それに続くのは、計画性を持って事に当たる力や、他人との協調を図る能力など、人間的に成長をすることを期待している学生である。

大学生活に何を期待していますか？

（複数回答可）



## 2-1 大学生活に何を期待していますか？（その他）

左は、その他の項目として、選択肢ではなく具体的に内容を書いてもらった部分の解答例である。

無し

特にありません  
でした

大丈夫です

言語の能力を  
上げたい

なし

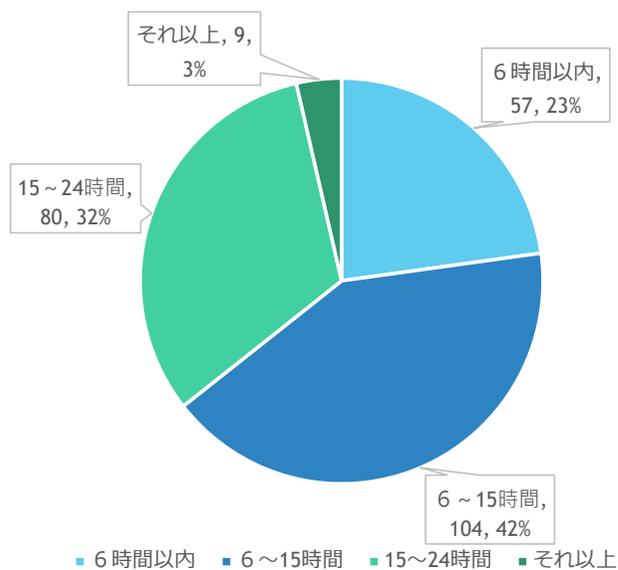
なし

ないしです

ない

ない

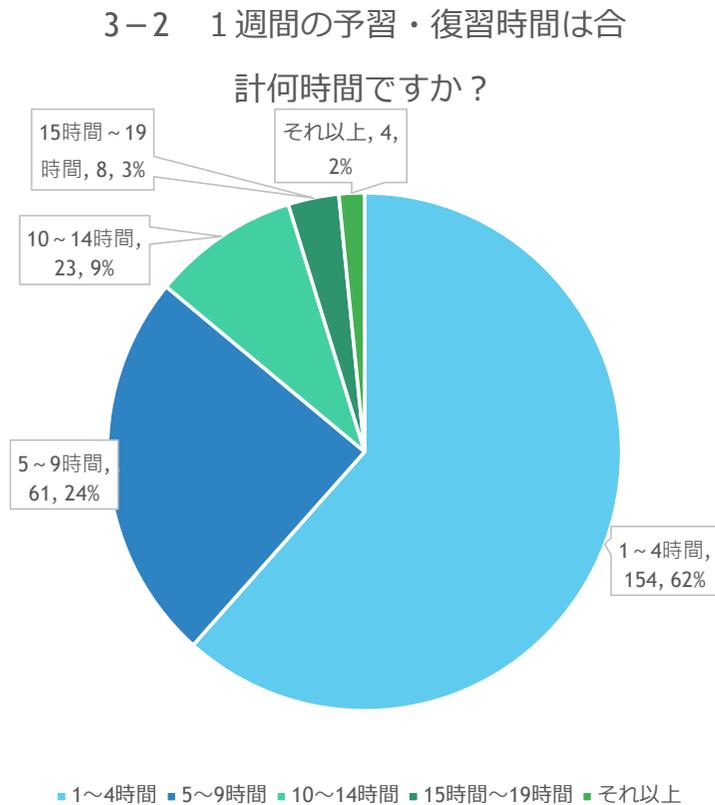
3-1 1週間の授業出席時間（遠隔授業時間も含む）は、合計何時間ですか？1時限を1.5時間として考えてください。



3-1 1週間の授業出席時間（遠隔授業時間も含む）は、合計何時間ですか？1時限を1.5時間として考えてください。

回答者は1年生から4年生まで、全学年に及んでいるため、週1~2時限の授業を受けている学生から、平均して毎日3時間以上授業を受けている学生まで、さまざまであるが、3%程度の学生は突出して授業に取り組んでいることが分かる。

## 3-2 1週間の予習・復習時間は合計何時間ですか？



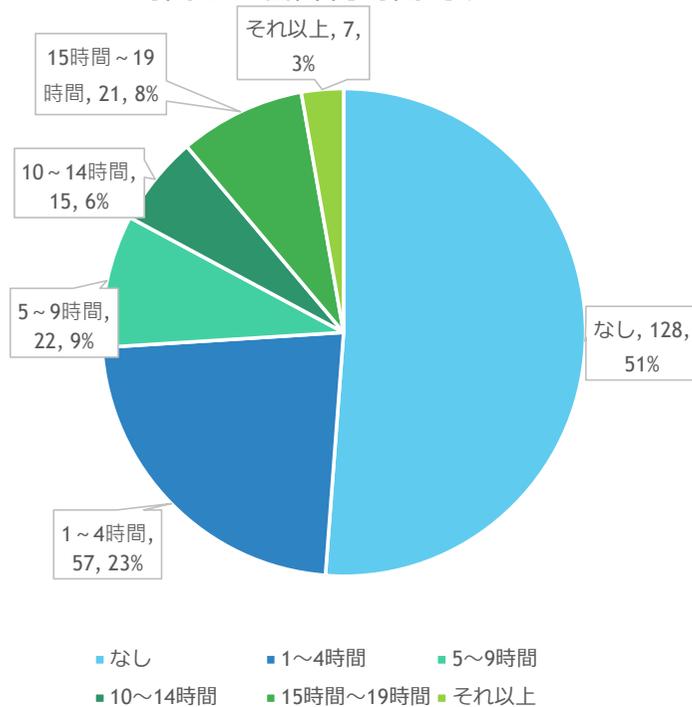
学生の授業以外の学習時間を問うた質問である。結果を見てみると、6割以上が1~4時間程度となっており、先の授業数のデータと引き比べてみると、相当数の学生が十分な学習時間を確保できていないことがわかる。逆に、2023年度のデータと比較すると、週に10時間以上学習する学生の割合が11%から14%に増加している。事前事後学習への取り組み方に関して学生間の格差が広がっていることがわかる。

## 3-3 1週間の部活・サークル活動時間は、合計何時間ですか？

今年度は5割の学生が、何らかの形で部活動を行っている。2023年度は、4割だったので、10%の増加である。部活動に取り組んでいる学生の活動時間をみると、1~4時間活動する学生が、昨年の12%から23%と倍増しており、サークル等で比較的短時間の活動を楽しむ学生が増加傾向にあるようだ。

### 3-3 1週間の部活・サークル活動

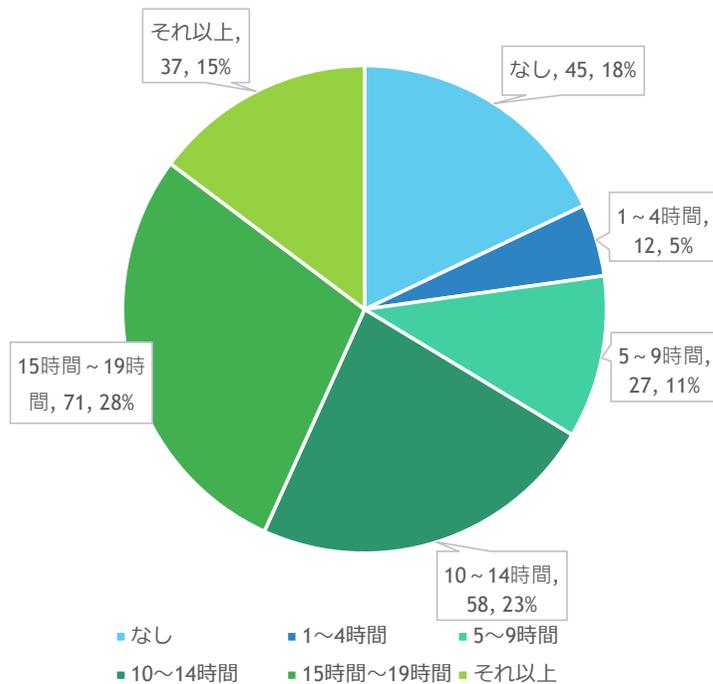
時間は、合計何時間ですか？



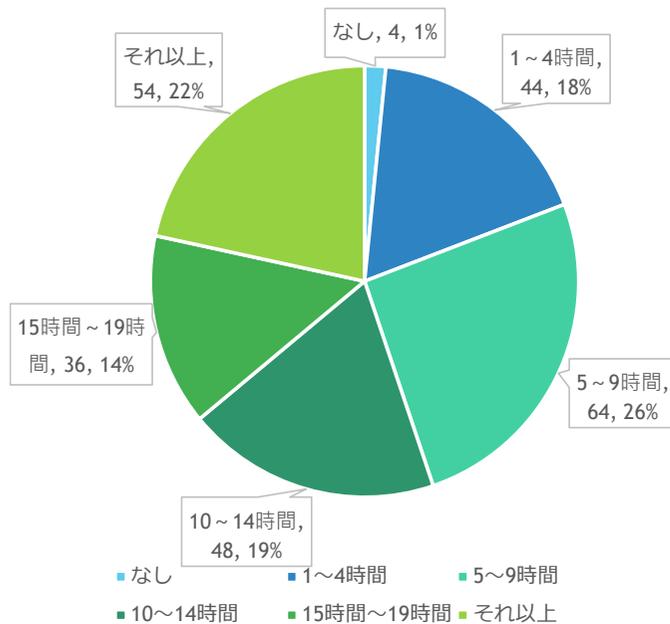
## 3-4 1週間のアルバイトの時間は、合計何時間ですか？

アルバイトをしていない学生は昨年度の17%とから18%に微増しているが、昨年同様5人中4人以上がアルバイトをしている状況である。アルバイトの時間も昨年よりも伸びる傾向がみられ、15時間から19時間の学生が昨年よりも2%増加している。物価高がより一層学生の経済的負担を増加させている状況がみえる。

3-4 1週間のアルバイトの時間は、合計何時間ですか？



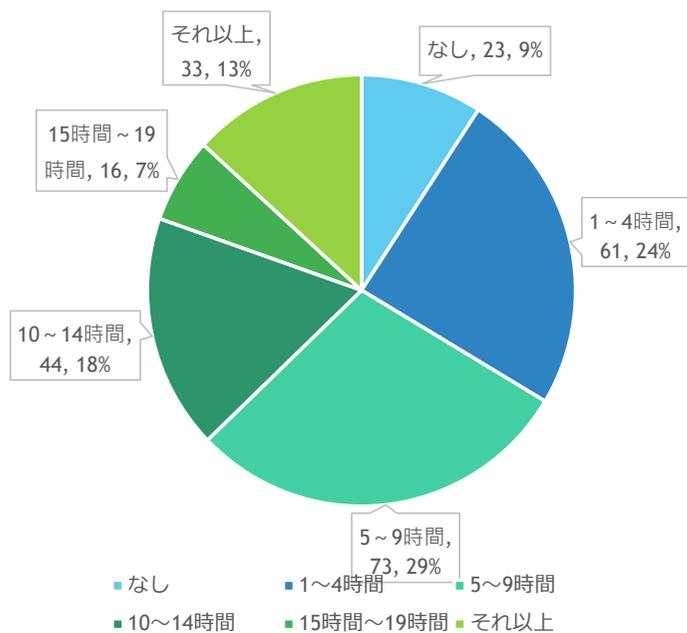
3-5 1週間のインターネットやSNS  
(ゲームを含む)の時間は、合計何  
時間ですか？



## 3-5 1週間のインターネットやSNS (ゲームを含む)の時間は、合計何時間ですか？

学生たちが、自分の生活や嗜好に応じて適宜インターネットやSNS を利用している状況であることがわかる。昨年度よりも全体的に数パーセントずつ使用時間が長くなっているが、特に20時間以上使用している学生の伸びが大きい。3-2においてわかった学習時間の一層の不足が、ネットの使用時間の伸びと関連がある可能性もある。

3-6 1週間のうち上記以外の趣味  
にかけた時間は、合計何時間  
ですか？



## 3-6 1週間のうち 3-5以外の趣味にか けた時間は、合計何時 間ですか？

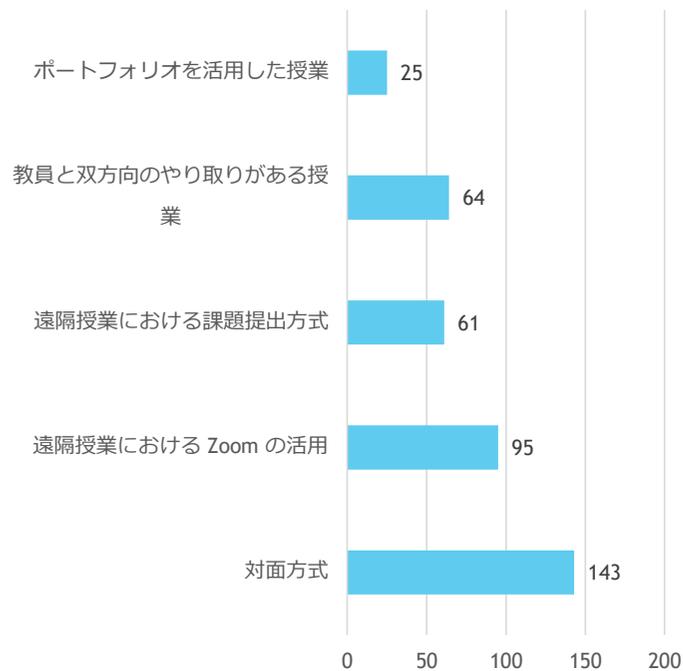
インターネットに関係しない趣味の分野は「なし」と答えた学生は、昨年同様9%だが、週に4時間以内とする学生は昨年から8%減少している。そのぶん、10~14時間および、15~19時間と回答した学生がそれぞれ2%、そして20時間以上が4%、それぞれ増加し、学生が趣味にかける時間は全体的にますます大きく伸びている。学生がネット以外の分野でも趣味を楽しめる環境が戻ってきていることが表から読み取れる。

## 4-1 魅力を感じる授業方法はどのようなものですか？（複数回答可）

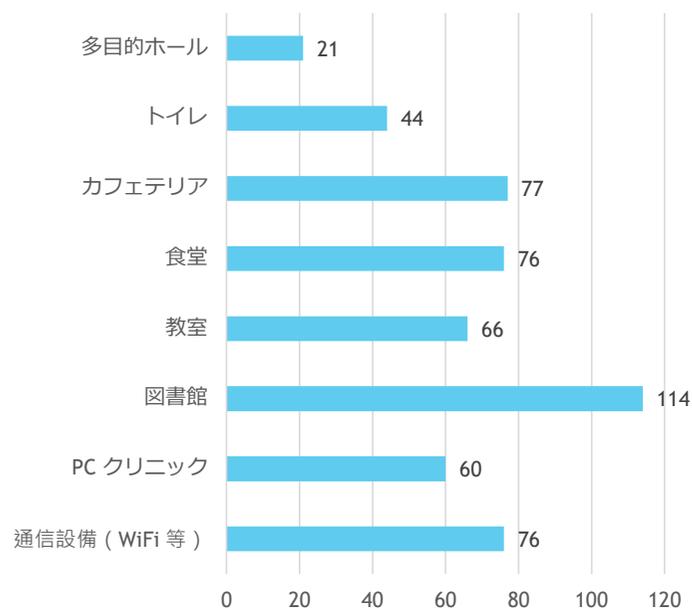
コロナ禍が過ぎ、2年前から原則的に対面授業が基本となったため、昨年同様、対面授業が最も好まれている。昨年と異なる特徴は、それ以外の授業形式に魅力を感じる学生が、すべての項目で大きく増加していることである。ポートフォリオを活用した授業は、2人から25人に増加し、教員との双方向のやり取りがある授業は14人から64人、遠隔授業における課題提出方式は14人から61人、と激動している。Zoomについては、昨年の82人から95人の増加である。

学生が様々な授業形式に魅力を感じるのは良いことだが、これが、学習時間の伸びに余り繋がっていないことが頭の痛い問題である。

魅力を感じる授業方法はどのようなものですか？（複数回答可）



5-1 大学の施設・設備についてあなたが満足しているものどれですか？（複数回答可）



## 5-1 大学の施設・設備についてあなたが満足しているものどれですか？（複数回答可）

大学の施設・設備に関しては、例年通り図書館に対する満足度が高い。通信設備やカフェテリア、食堂も、昨年と同じく学生の満足度を一定数勝ち得ているようである。

食堂については、引き続き、学生部による補助活動の一環としての食券の割引を行っているため、その成果が今年度も出ていると思われる。

昨年のアンケート結果を受け、学生の声にこたえるべく、教室の設備変更やトイレへの荷物置き場の設置、多目的ホールの整備などの改善を進めた結果、多目的ホールでは昨年の3人から21人、トイレも14人から44人、教室は14人から66人、PCクリニックは36人から60人と学生の満足度が目に見えて上がっている。

無し

なし

なし

なし

ないです

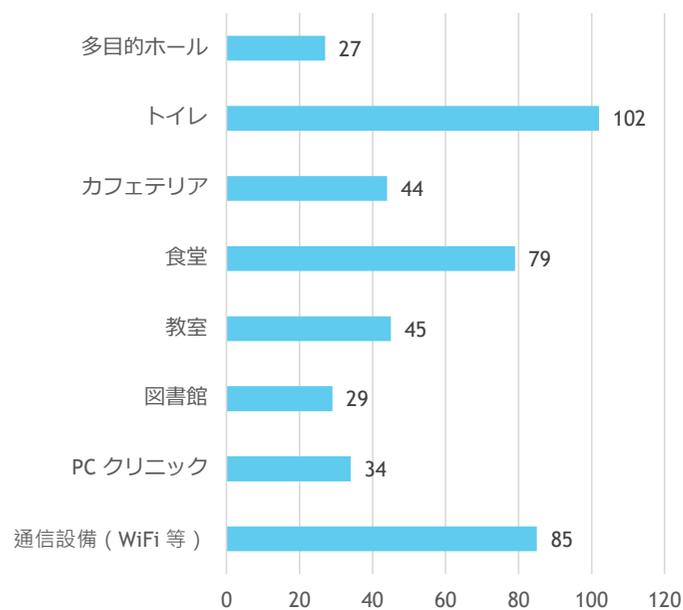
ない

ない

5-2 上の質問で「その他」と答えた方に質問します。「その他」の具体的な内容を書いてください

左は、上記の質問に対して、その他と回答した学生に、その具体的な内容を答えてもらった結果である。

5-3 大学の施設・設備についてあなたが満足できないものどれですか？（複数回答可）



## 5-3 大学の施設・設備についてあなたが満足できないものどれですか？（複数回答可）

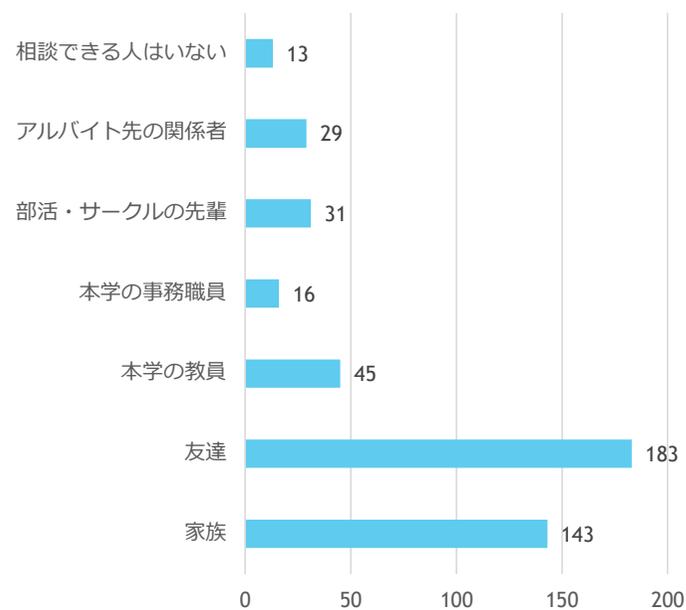
大学の施設・設備について、学生が不満を感じているのは、特にトイレと通信設備であるという結果となった。5-1の質問との整合性を考えると、図書館やPCクリニックに感じる学生の満足感に特に矛盾はなさそうであるが、食堂は、満足を感じている学生と同じくらい不満を感じている学生がいることがわかる。トイレや通信設備は、5-1で確認したように昨年より満足度が上がってはいても、それ以上に不満を感じる学生がいるということがわかる。

## 5-4 上の質問で「その他」と答えた方に質問します。「その他」の具体的な内容を書いてください

左の表は、上記の質問に対して、その他と回答した学生に、その具体的な内容を答えてもらった結果である。

無
並ぶ時間がかかるから、たまに何も食わずに休憩時間終わります。
特になし
大学内の施設や設備に不満を感じていない。
教室の椅子が長時間講義を受けるには腰に負担がかかりすぎる
学校の休憩時間とか授業がない時スポーツができるモノがない。バレーボールとネットが学校をお願いします。
なし
ないです
ない
ない
ありません。

6-1 悩み事や不安なこと、将来のことなどを気軽に話せる人は誰ですか？（複数回答可）



## 6-1 悩み事や不安なこと、将来のことなどを気軽に話せる人は誰ですか？（複数回答可）

相談できる相手として友達や家族が圧倒的に多い。これはある意味当然の結果と考えられるが、教員や事務職員を選んでいる学生も、昨年より増加している。気になるのは「相談できる人がいない」と答えた学生の存在であるが、昨年の15人より微減し、今年度は13人であった。昨年同様減少傾向にあるとはいえ、いまだに一定数の学生が悩みを一人で抱え込んでいることになる。学生の相談室の存在をより一層周知し、学生が相談しやすい環境を更に整える必要が今後もあると思われる。

無し

中学の先生などの  
外部の先生

なし

なし

ないです

ない

ない

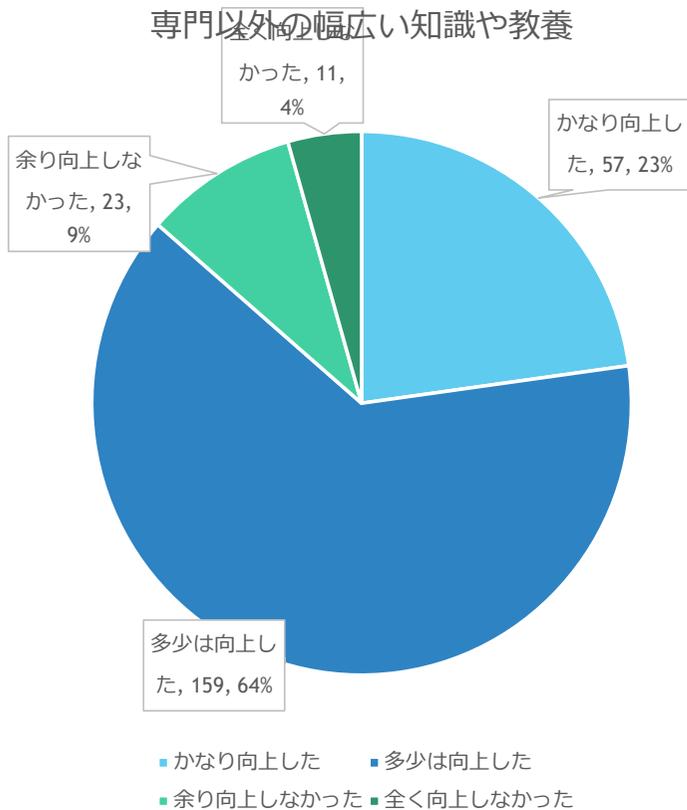
いつも自分で

ありません。

6-2 上の質問で「その他」と答えた方に質問します。「その他」の具体的な内容を書いてください

左は、上記の質問に対して、その他と回答した学生に、その具体的な内容を答えてもらった結果である。

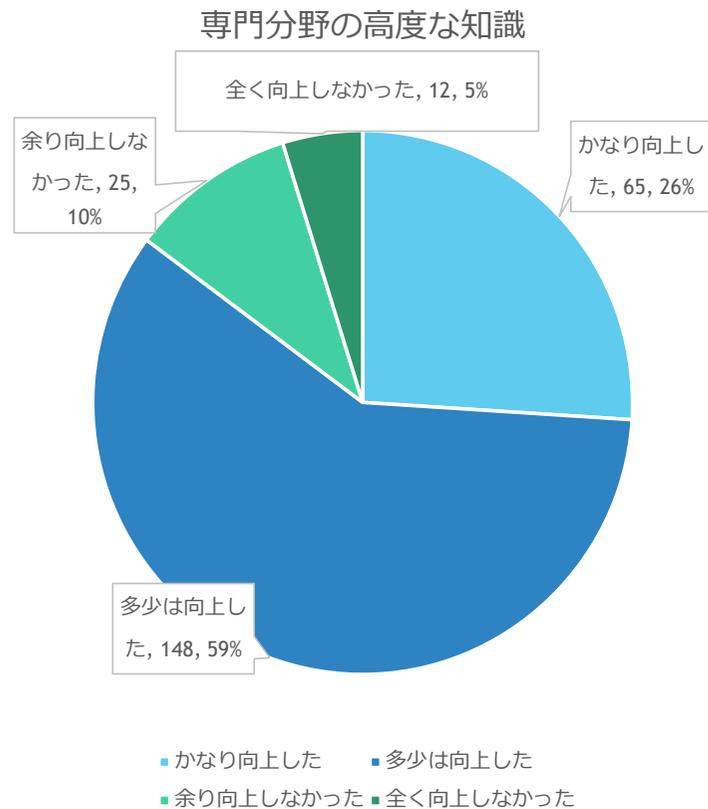
## 7-1 専門以外の幅広い知識や教養



7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。専門以外の幅広い知識や教養については、23%（去年は21%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、87%の学生が向上したと答えている。9割近くの学生が継続的に自己の成長を感じてくれているのは喜ばしいことだといえよう。

## 7-2 専門分野の高度な知識

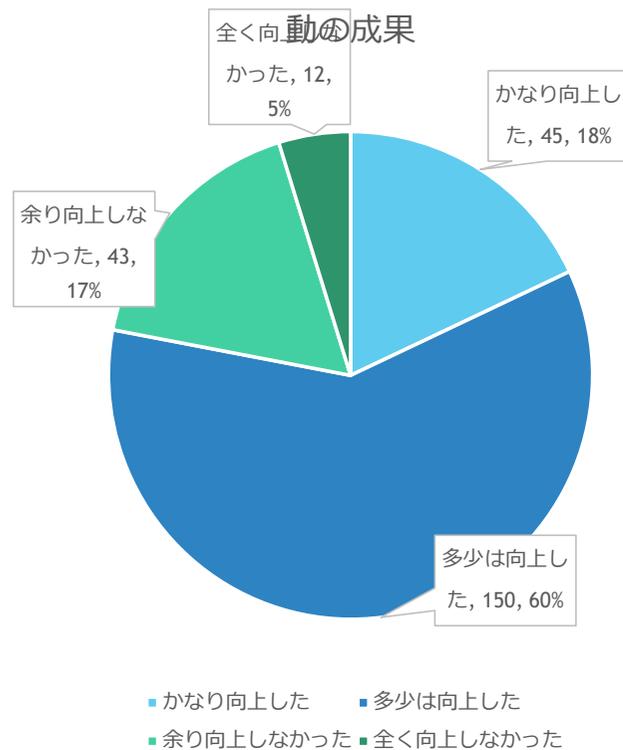
7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。専門分野の高度な知識については、26%（昨年20%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、85%の学生が向上したと答えている。昨年まで、4年続けて専門分野の高度な知識を獲得できたと考える学生の数が増加してきた。今年度は、数字的には昨年度よりも3%少なく、数字的には増加傾向が落ち着いてきた。それでも、多くの学生が学業に手ごたえを感じており、望ましい傾向が続いている。



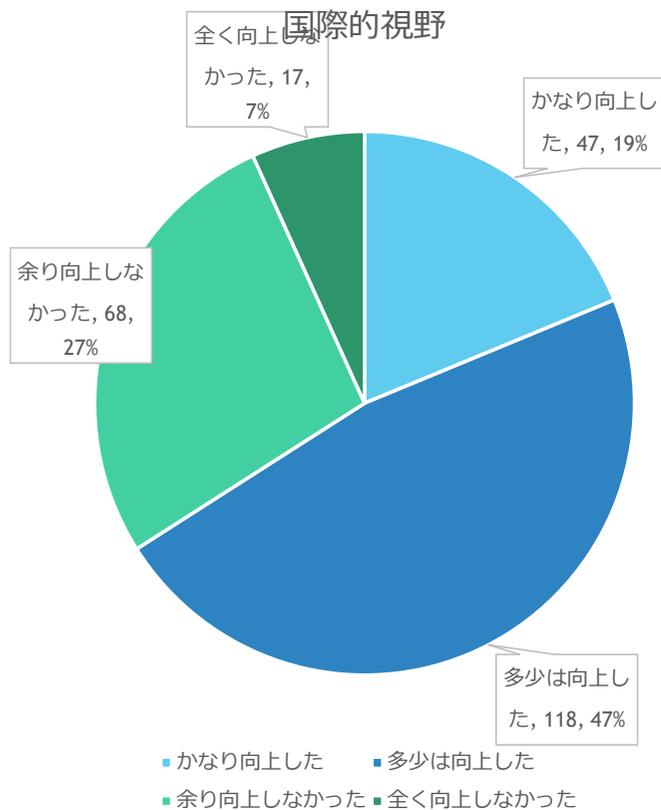
## 7-3 就職につながる学習や資格取得、活動の成果

7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。就職につながる学習や資格取得、活動の成果については、昨年同様18%の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、78%（昨年は75%）の学生が向上したと答えている。向上したと考える学生が昨年に引き続き増加していることは望ましい。CDC等学校側の努力が実を結んでいるようである。

就職につながる学習や資格取得、活動の成果



## 7-4 国際的視野



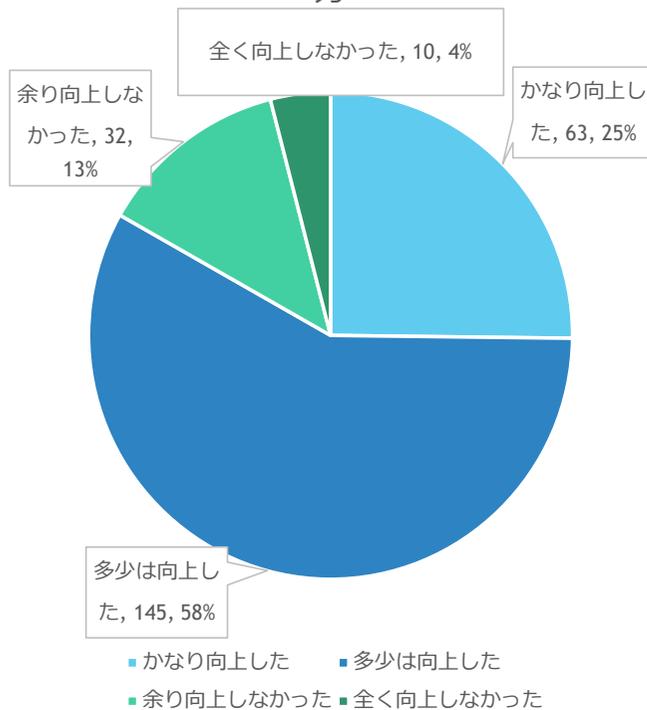
7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。国際的視野については、19%（去年は18%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、66%（去年は73%）の学生が向上したと答えている。数値が昨年度よりも7%落ち込んでいることは気になるところである。

## 7-5 人と協力しながらものごとを進める力

7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。人と協力しながらものごとを進める力については、25%（昨年も25%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、83%（昨年も83%）の学生が向上したと答えている。

人と協力しながらものごとを進める

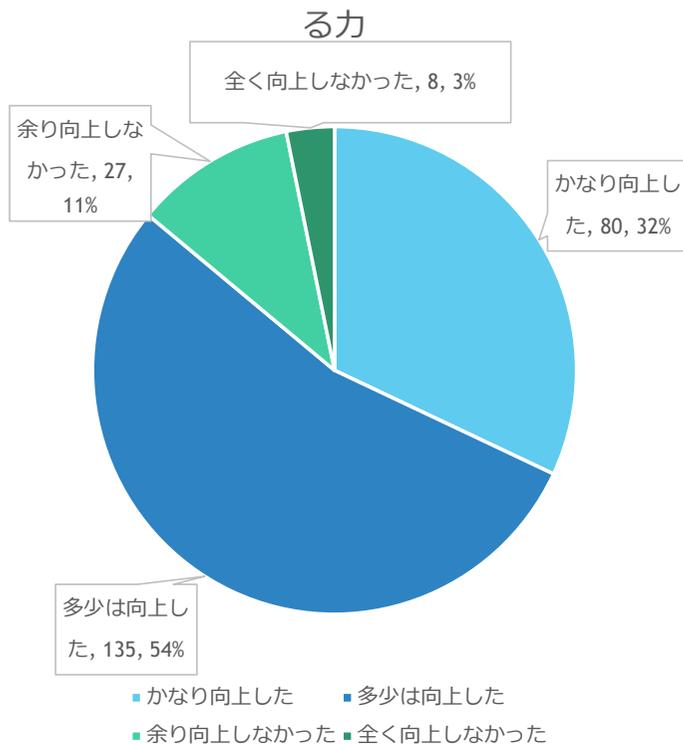
力



## 7-6 自分の感情を上手にコントロールする力

7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。自分の感情を上手にコントロールする力については、32%（昨年は27%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、86%（昨年は83%）の学生が向上したと答えている。好ましい増加傾向がみられる。

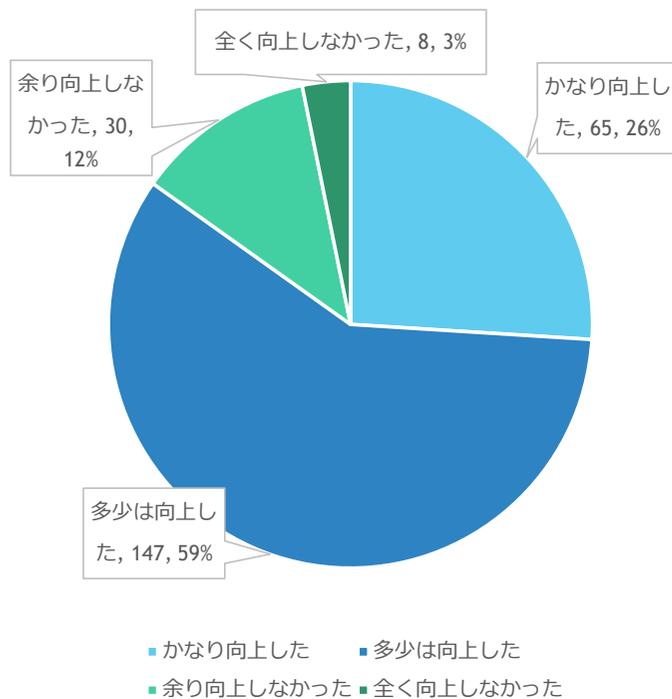
自分の感情を上手にコントロールする力



## 7-7 ものごとを内省的・多面的に考える力

7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。ものごとを内省的・多面的に考える力については、26%（昨年も26%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、85%（昨年は87%）の学生が向上したと答えている。

ものごとを批判的・多面的に考える力

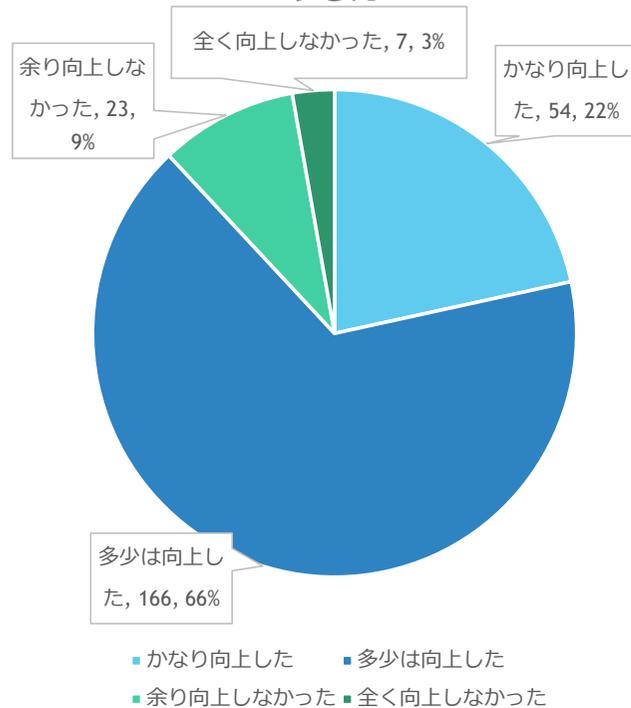


## 7-8 現状を分析し、問題点や課題を発見する力

7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。現状を分析し、問題点や課題を発見する力については、昨年同様22%（昨年は23%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、88%（昨年は85%）の学生が向上したと答えている。

現状を分析し、問題点や課題を発見

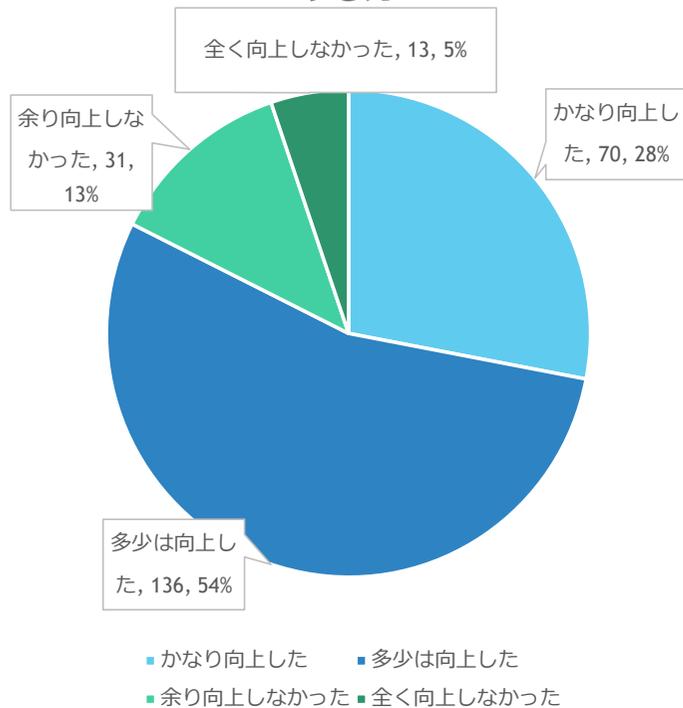
する力



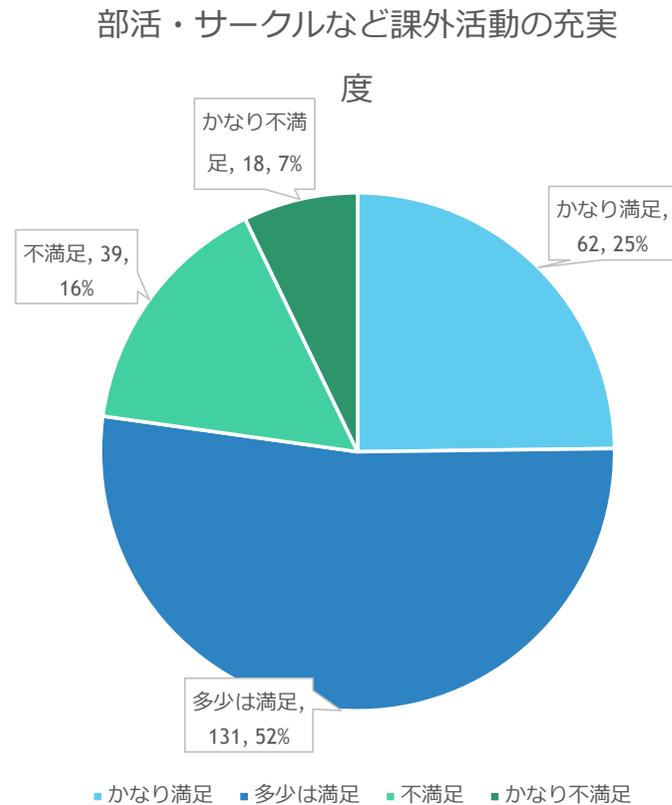
## 7-9 自分で目標を設定し、計画的に行動する力

7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。現状を分析し、自分で目標を設定し、計画的に行動する力については、28%（去年は23%）の学生が「かなり向上した」と考えており、「多少は向上した」と考える学生と併せると、昨年同様82%（去年は81%）の学生が向上したと答えている。

自分で目標を設定し、計画的に行動する力



## 7-10 部活・サークルなど課外活動の充実度

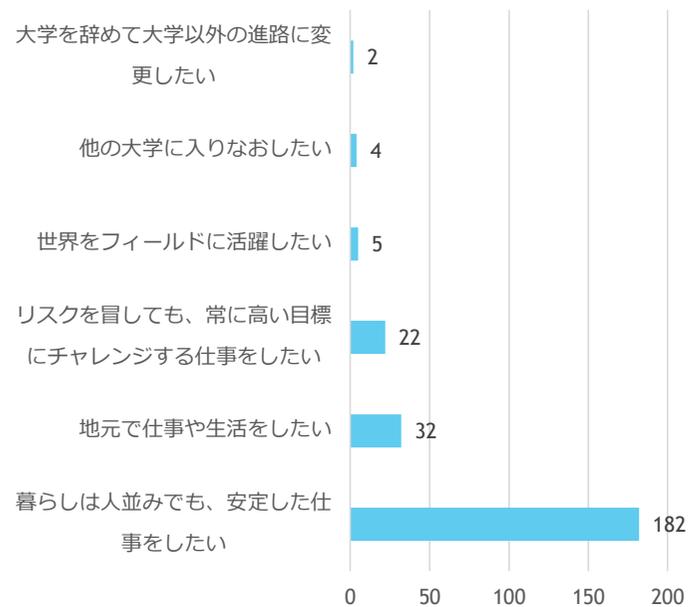


7の質問項目は、学生の大学への期待に対する成果について質問したものである。部活・サークル、学友会活動など課外活動の充実度については、77%（昨年は76%）の学生が「かなり満足」または「多少は満足」と答えている。3-3の質問項目で、51%（昨年は61%）の学生が部活動やサークルには所属していなかったが、この1年で10%の学生が新たに課外活動に参加するようになってきている。ここ数年、新しいサークルが次々に生まれている状況を考えると学生の課外活動の充実へ向けてより望ましい方向へ進んでいると思われる。

## 8-1 あなたの将来の希望について、どれが当てはまりますか？（複数回答可）

8-1の質問は学生の将来の希望について問うたものであるが、例年通り多くの学生が安定志向であることが分かる。例年一定数存在してきた「世界をフィールドに活躍したい」と考える学生（8%→5%）や「リスクを取っても高い目標にチャレンジしたい」と考える学生（36%→22%）は、今年度は割合を減らしており、学生の意識は内向き、及びリスクヘッジの方向へ動いているように思われる。

8-1 あなたの将来の希望について、どれが当てはまりますか？（複数回答可）



無し

途中経過として  
30代までに1000  
万貯める

なし

なし

ない

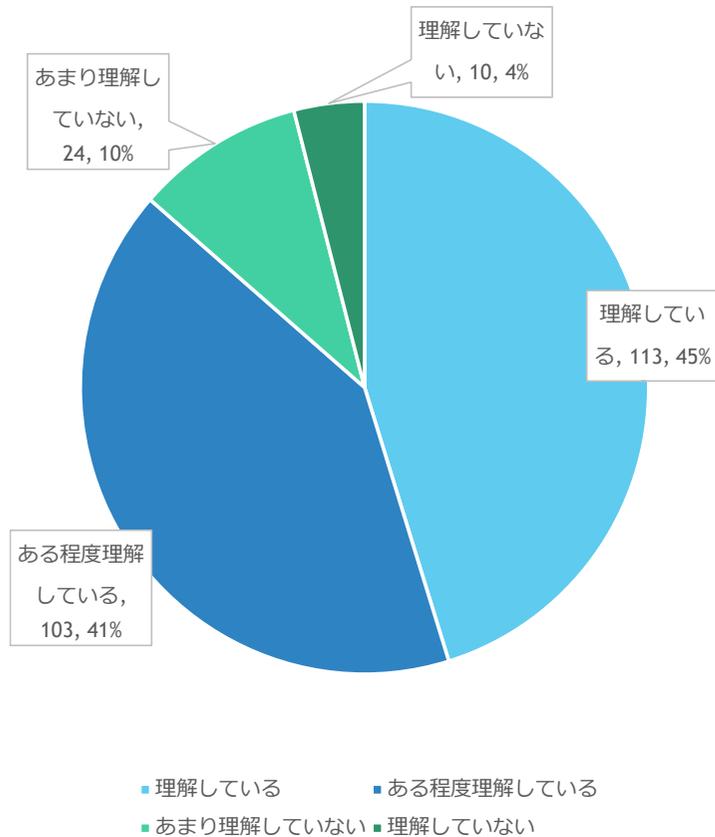
ない

ありません

8-2 上の質問で「その他」と答えた方に質問します。「その他」の具体的な内容を書いてください

左の表は、上記の質問に対して、その他と回答した学生に、その具体的な内容を答えてもらった結果である。

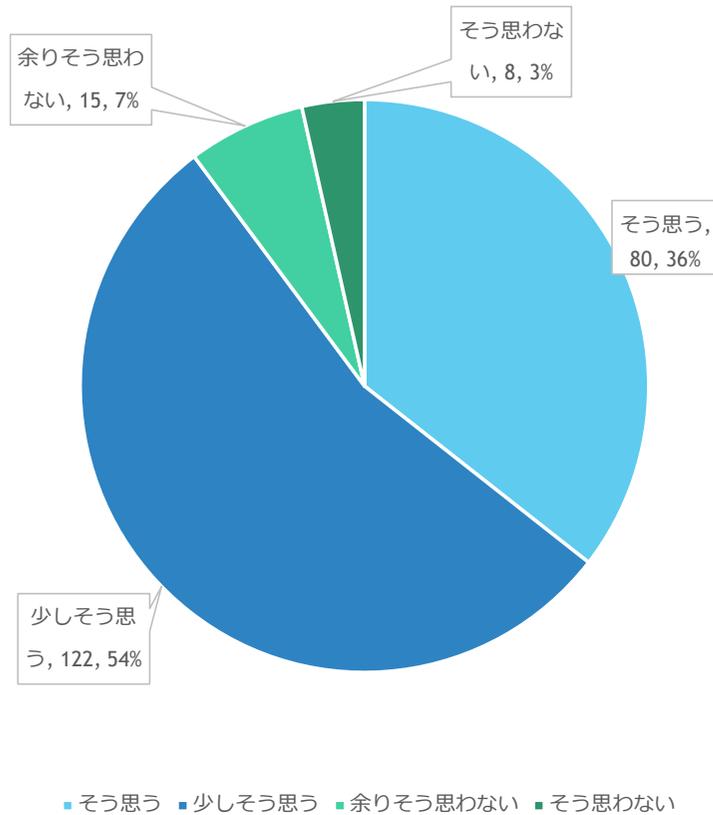
## 9-1 本学の「建学の精神」である「至心」「報恩感謝・自愛と奉仕」「容（かたち）は心を呼び、心は容（かたち）を呼ぶ」を理解していますか？



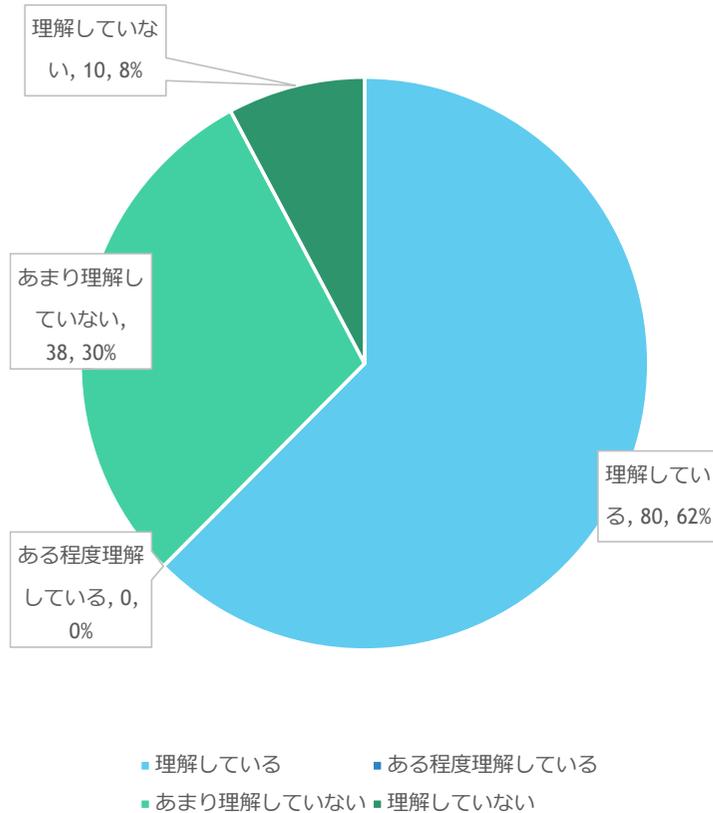
本学の「建学の精神」の理解に関する質問である。授業等で建学の精神に触れることも多いためか、「理解している」学生は全体の45%（昨年は41%）を占め、「ある程度理解している」学生を加えると、全体の86%（昨年は88%）の学生が理解しているという結果となった。少なくともある程度以上理解している学生は3年続けて9割近くを占めており、教育の成果が出ているものと考えられる。

9-2（上の質問で、「理解している」「ある程度理解している」と回答した方へ）あなたは「建学の精神」を意識して実行できていると思いますか？

本学の「建学の精神」の理解に基づいて、日ごろの生活にその精神が生かされているかを問う質問であるが、「そう思う」学生は全体の36%（去年は32%）を占め、「少しそう思う」学生を加えると、全体の90%（去年は87%）の学生が、建学の精神を理解した上で自分の生活に活かすことが出来ているという結果となった。

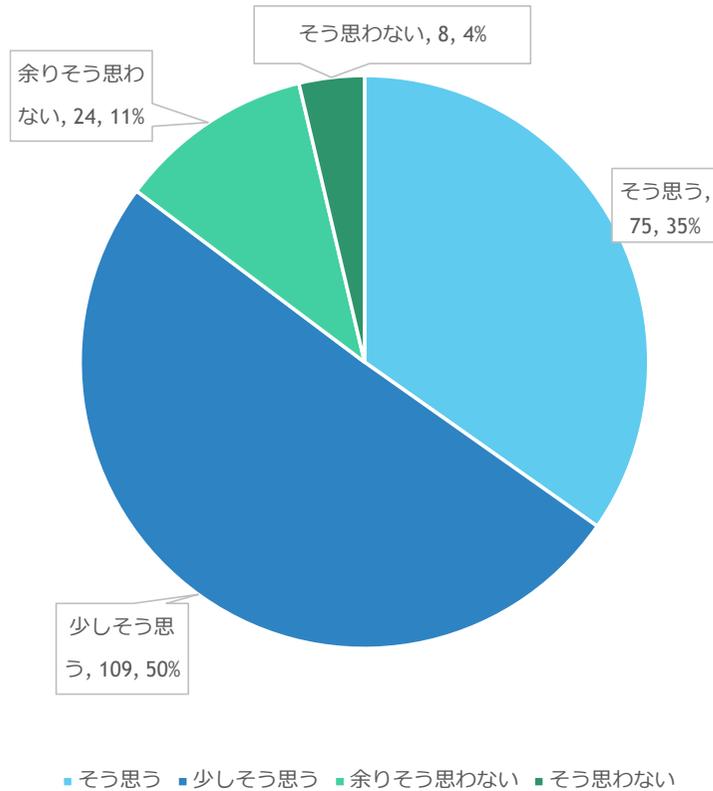


### 9-3 本学の入試要項に記載されている「アドミッションポリシー」（入学者の受け入れ方針）を理解していますか？



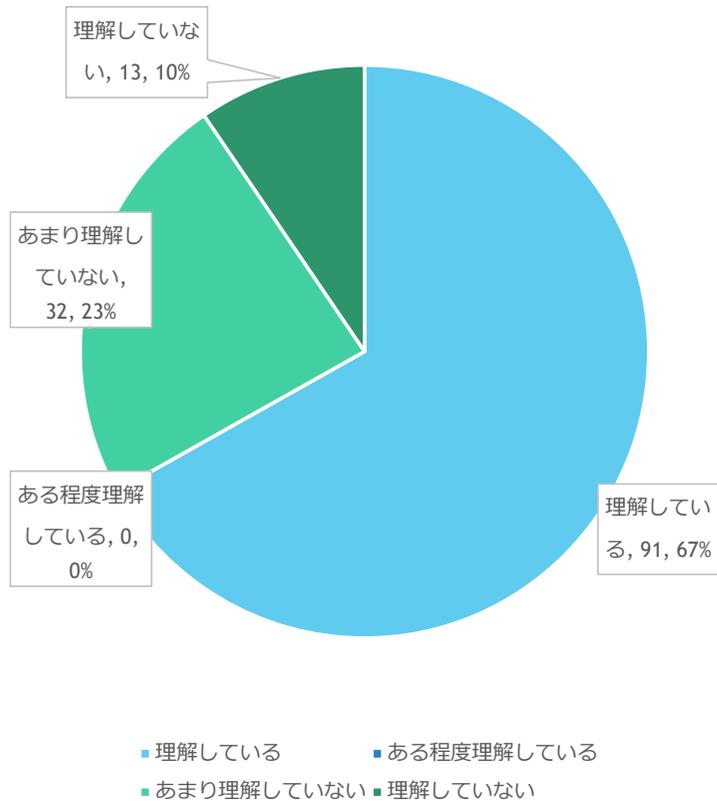
本学の「アドミッションポリシー」の理解に関する質問である。「理解している」学生は全体の62%（昨年は64%）を占めている。しかしながら、昨年同様、今年度も「ある程度理解している」学生が0であるため、加えても62%のままである。反対にあまり理解していない、または理解していない学生が昨年の36%から38%に増加してしまっている。入試要項などをあまり気にせず入学している可能性が考えられる。アドミッションポリシーの学生への周知は、引き続き本学の課題の一つとなっている。

## 9-4 (上の質問で、「理解している」「ある程度理解している」と回答した方へ) 入学後に、あなたは「アドミッションポリシー」を意識して実行できていると思いますか？



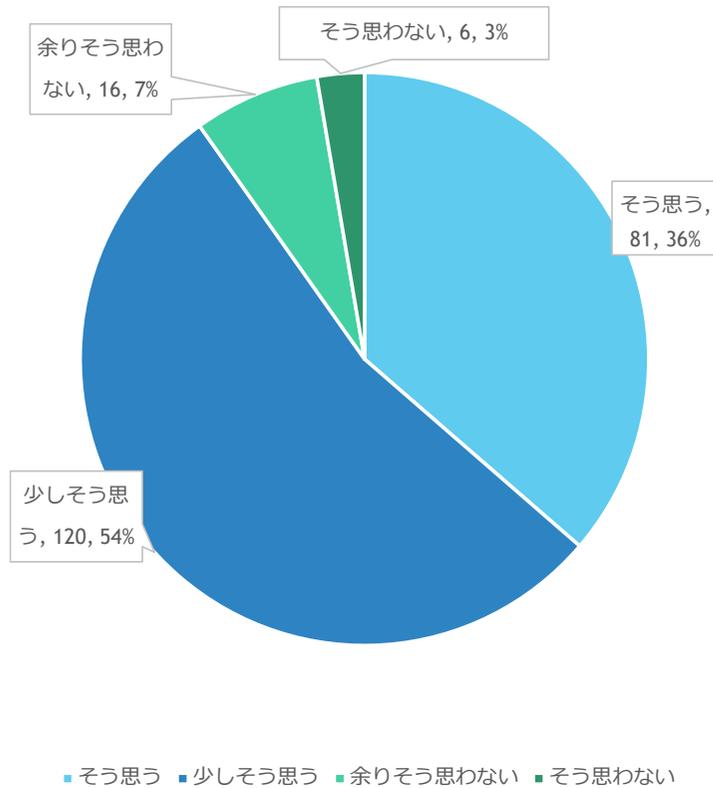
本学の「アドミッションポリシー」の理解に基づいて、日ごろの生活にその内容が活かされているかを問う質問であるが、「そう思う」学生は全体の35%（昨年も35%）を占め、「少しそう思う」学生を加えると、昨年と同じ全体の85%（昨年は87%）の学生が、本学のアドミッションポリシーを理解した上で自分の生活に活かすことが出来ているという結果となった。しかしながら、9-3でみたように、元々本学のアドミッションポリシーを理解している学生の人数が限られているので、やはり、学生全体の理解を促すような工夫が必要だと思われる。

## 9-5 本学の学生便覧に記載されている「ディプロマポリシー」（卒業認定・学位授与の方針）を理解していますか？



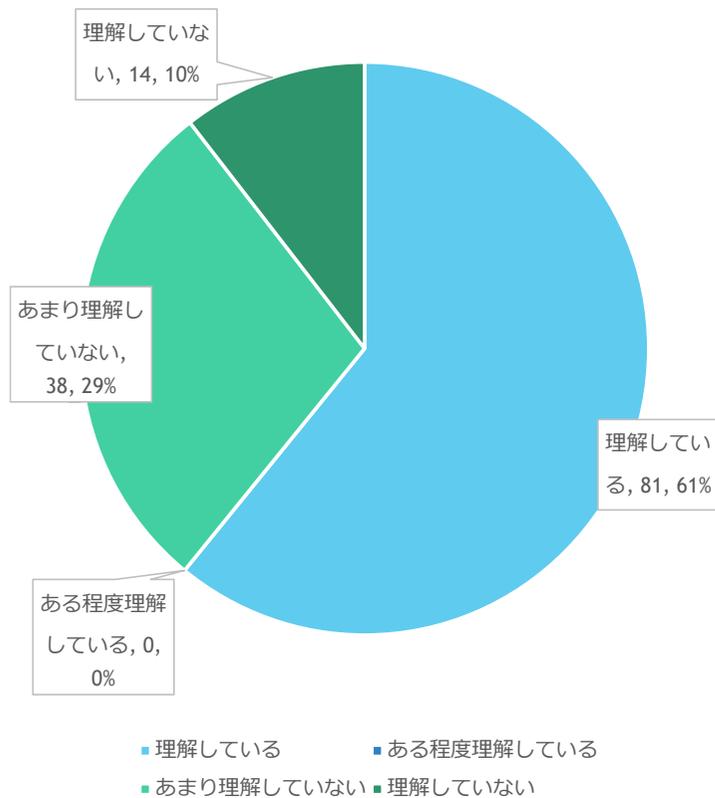
本学の「ディプロマポリシー」の理解に関する質問である。「理解している」学生は全体の67%（昨年も67%）を占めているが、昨年同様「ある程度理解している」学生が0なので、全体の67%（昨年も67%）の学生が理解しているという結果となった。アドミッションポリシーに引き続き、学生の理解を促すような工夫が必要であろう。

9-6（上の質問で、「理解している」「ある程度理解している」と回答した方へ）入学後に、あなたは「ディプロマポリシー」を意識して、卒業認定・学位授与に向けて努力できていると思いますか？



本学の「ディプロマポリシー」の理解に基づいて、日ごろの生活にその内容が活かされているかを問う質問であるが、「そう思う」学生は全体の36%（去年は40%）を占め、「少しそう思う」学生を加えると、全体の90%（去年は88%）の学生が、本学のディプロマポリシーを理解した上で自分の生活に活かすことが出来ているという結果となった。しかしながら、9-5でみたように、元々本学のディプロマポリシーを理解している学生の人数が限られているので、やはり、学生全体の理解を促すような工夫が必要だと思われる。

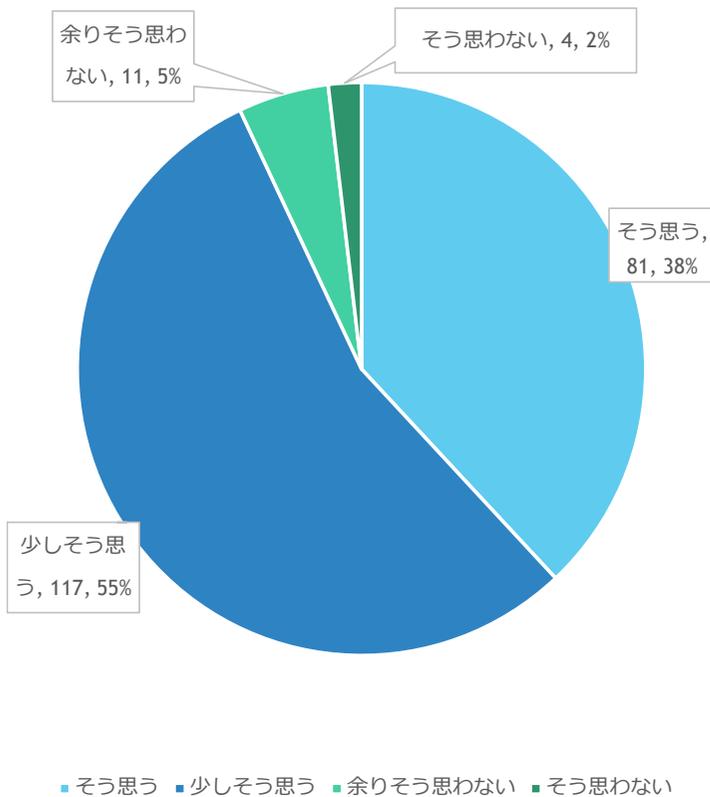
## 9-7 本学の学生便覧に記載されている「カリキュラムポリシー」（教育課程編成・実施の方針）を理解していますか？



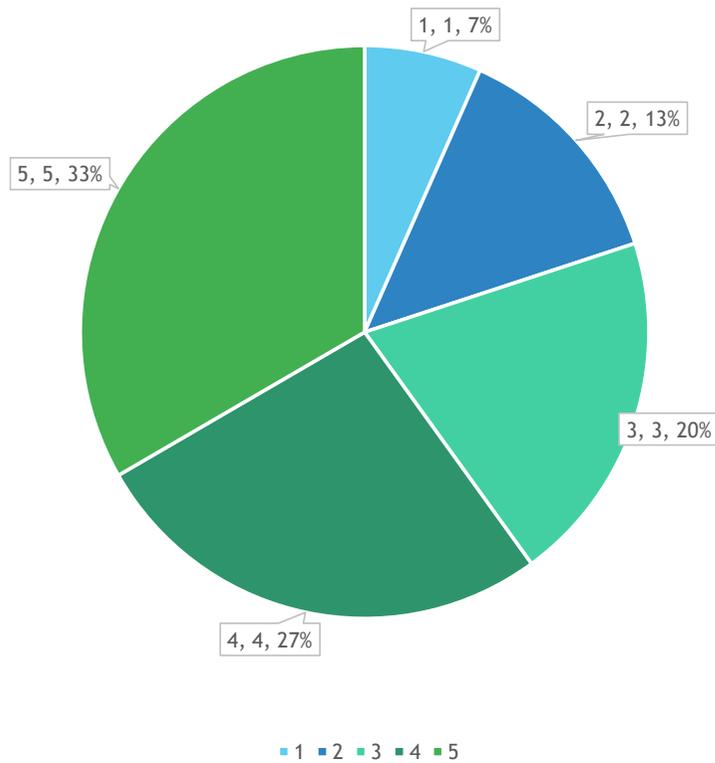
本学の「カリキュラムポリシー」の理解に関する質問である。「理解している」学生は全体の61%（昨年は67%）を占めているが、「ある程度理解している」学生が0なので、結局全体の61%（昨年は67%）の学生しか理解していないという結果となった。どうい  
うわけか、2年続けて三つのポリシーの理解度が三つとも以前より下がってしまっている。初年時教育等で知識を補う必要があるかもしれない。

9-8 (上の質問で、「理解している」「ある程度理解している」と回答した方へ) 本学は、基礎から応用までを体系的に学べるカリキュラムと授業が実行されていると思いますか？

本学の「カリキュラムポリシー」の理解に基づいて、日ごろの生活にその内容が活かされているかを問う質問であるが、「そう思う」学生は全体の38%（去年は36%）を占め、「少しそう思う」学生を加えると、全体の93%（去年は91%）の学生が、本学のカリキュラムポリシーを理解した上で自分の生活に活かすことが出来ているという結果となった。しかしながら、9-7でみたように、元々本学のカリキュラムポリシーを理解している学生の人数が限られているので、やはり、学生全体の理解を促すような工夫が必要だと思われる。



## 10-1 この大学における教育全体について、あなたの評価は5段階のうちいくつですか？



本学の教育への総合的な評価を問う質問である。5が33%（昨年も33%）、4が27%（昨年も27%）であり、60%の学生が高得点を付けている。昨年度に引き続き、今年度も5の評価が最も多い結果となった。全体として学生の評価は高い水準を保っている。今後も学生の学習環境を改善するなど、充実した学生生活を送る手助けを大学が積み重ねることによって、本学に在籍し卒業していく学生たちのより大きな満足感に寄与できるよう努めたい。

留学生が日本人よりも多く日本人の立場がなくなっている気がする。図書館での過ごし方の多言語での注意や留学生指導教員等がいればいいと思う。

日本人と留学生の壁が大きく、外国人との交流はほとんどできていないと感じる。

特に何もありません。

専門的な授業をもっと増やして欲しい。

設備が不十分な部分がありもっと学生が過ごしやすい空間を目指せと思う。おそらく設備投資をするには持続的かつ安定的な財源を確保する必要があるので外からの収入、財源を確保する仕組みを作るべきである。そうする事で職員にも学生にも還元されより企業とも結びつきが強い大学となる事ができる。具体的には部活動で活躍している陸上部や相撲部など法人化させて体験教室を行う事で定期的な収入を得る。その上でスポンサー契約などの企業収入を得るための営業を大学主体で行い、新たな利益を獲得していく。大学をはじめ学生を取り巻く事でガクチカにも繋がり、企業との縁が頂けるかもしれないため学生大学側共にお互いに利益のあるものになるのではないかと考える。

設備が全体的に乏しい...

生徒数に対して食堂が狭い

生徒に対してネチネチ小言を言う教授が一定数いるところ。

図書室に静かじゃない、勉強することは全然できない、仕事と復習も無理だ。もしある人は話したい、隣りにカフェがあるので、カフェに話することができる、何で行かないとわからない。そういうこと、先生も管理しなかった、そんなことも理解できない。

食堂以外にもコンビニまでではないがそんな場所あったら助かります

情報大学だけ聞いてパソコンが上手と思われることが多いのもっとパソコンやコミュニケーション能力を高める授業があればいいと思います。

外国人留学生が多く他の国の学校のような風紀になっている。また、専門性の高い授業があまりなくeスポーツに行くのはいいが制作する方を育てる方が大事なのではないかと思う。さらに、1年の頃から就活就活と言われるため就職予備校のようになっており学業に集中できず大学の意味をなしていない。

## 10-2 もしあれば、この大学について不満を感じている点について書いてください。

文字の長さがそれぞれ異なる回答が50件寄せられていて、1ページにまとめきれないため、割愛する。

---

野中監督が色々な面でサポートしてくださって、とても感謝しています。練習も充実していて本学に来てよかったととても感じます

大学のスタッフの皆様はとても親切で親しみやすく、一人ひとりの学生を丁寧にサポートして下さるため、ADHDやASDなどの神経発達症を含む、あらゆる学生にとって安心して過ごせる快適な環境が整っていると感じます。また、本学が多くの外国人学生を受け入れ、新しい環境や社会に適応できるよう特別な配慮をされている点も大変ありがたく思います。さらに、学生の楽しみを大切に、食事や飲み物の提供を含め、楽しく興味深いイベントを積極的に企画されていることも印象的です。加えて、大学は非常に美しい場所に位置しており、訪れるたびに心が癒され、刺激を受ける素晴らしい環境だと感じています。

太宰府の様々な歴史的な事を得る事が出来ました。

専門性を高められた。これからネットなどの情報系などのデジタルになっていく中で、必要な知識を学ぶことができた。

先生方や教務課の方々は、接しやすく話しやすい方が多くいつもお世話になっています。

先生またスタッフからしっかりまた優しく教えてくれたこと

先生はとても熱心です。IT業界に関する多くの知識を学びました。

生徒数などが少なく比較的規模の小さい大学であるため落ち着いて過ごせること、物事を客観的に見ることのできるスキルや、文章作成などが以前よりも上手くできるようになったことなどたくさんあります。また、秋吉先生の授業のフィールドワーク及びグループワークを通して人と一緒に協力することの楽しさなどに気づくことができました。

小規模で、様子を気にかけてくれる教授と気楽に話せること。

就職関連の情報が多く、掲示板のお知らせなどが多くあることがとてもよかった。

合田教授のゼミが自分に対して正確なアドバイスと将来に繋がる専門知識をたくさん身につけてもらっている

教員のサポート、教務課とCDCの方が優しくして学生のことを心配してくれる。

パソコンを全く使えない中入学したが、基礎的な知識から教えてもらえたので、専門的な内容に入っても怖がらず勉強できた点。

---

## 10-3 もしあれば、この大学に入学して良かったと思う点について書いてください。

文字の長さがそれぞれ異なる回答が56件寄せられていて、1ページにまとめきれないため、割愛する。